

特集

## 仮設自治会が連合会 悩み共有、行政対応一本化

宮城県石巻市内の仮設住宅自治会が参加し、各自治会が抱える課題などを話し合う「石巻仮設自治連合会」が発足した。市によると、市内では初の取り組みという。孤独死対策などの悩みを共有するほか、行政とのやりとりの窓口を一本化することで、各自治会の運営をスムーズにする。

連合会は万石浦、渡波第1、2、水押、大橋の仮設住宅の5自治会で結成した。ほかの自治会にも参加を呼び掛ける。毎月第3金曜日に集まり、課題の協議のほか、市の担当者を招いて意見を交換する予定。

5自治会の会長ら14人が9日、仮設渡波第1団地の集会所で開いた会合で設立が決まった。「ボランティア支援ベース絆」の招きで阪神大震災の際の仮設住宅で自治会長を務めた神戸市職員大西正人さん(55)も参加し、孤独死対策の重要性を説明した。

大西さんは運営する仮設住宅の孤独死を防いだ経験を基に「神戸では自治会の連合会をつくったことが問題解決に効果を上げた」と助言した。

連合会の座長を務める仮設万石浦団地の後藤嘉男自治会長(71)は「孤独死を防ぐにも問題点を話し合う場は必要。横の連絡を密に取り合っていきたい」と話した。

次回の会合は来年1月20日午後7時、仮設渡波第2団地の集会所で開く。連合会の連絡先は、後藤さん090(9038)7306。

2011年12月11日日曜日